

日本共産党  
流山北部後援会

# ニュースあすなる

2017年11月  
第225号  
発行責任者  
菊池 伍郎  
TEL/FAX  
7154-0526  
小倉 卓郎  
TEL/FAX  
7155-0272  
(部内資料)

## 小選挙区制マジックで自民圧勝

### 「憲法9条を守って」消費税10%反対」など、自民の主張が支持された

### 総選挙結果

「ニュースあすなる」読者の皆さん。10月22日投票の衆議院議員選挙で安倍暴走政治を止めさせるため市民と野党の共闘と日本共産党の躍進をめざし戦いました。ご支持・ご協力ありがとうございました。

日本共産党は沖縄1区（小選挙区）で議席を守り、比例で11議席を獲得しました。が、前回より後退、残念な結果となりました。しかし、自民党や小池氏らの野党分断策動を乗り越え市民と野党の共闘を前進させて、安倍独裁政治と戦う力を維持できたことは、今後の大きな希望になりました。皆さんとともに日本共産党を引き続き応援していきます。

後援会長 菊池伍郎 小倉卓郎

### 「日本共産党の大英断」

総選挙は残念ながら自民党の圧勝という結果になりました。しかし共闘を進めていた野党が小池新党などにより分断され、自民党は有権者の17%台の支持を得ただけなのに議席は圧勝の形になりました。小選挙区制という不合理な制度の結果です。日本共産党は安倍暴走政



総選挙の時、雨の中、カドヤ前で共産党への支持を訴える後援会員

治を止めるには野党と市民が結束して戦うしかありません。

### 植田和子 議会報告会

### 28年度決算に反対

植田和子市議の第25回9月議会報告会が、10月29日（日）の午前10時から東深井福祉会館和室で行われました。豊の上に行われまして、車座になって和やかな雰囲気。植田市議は要旨、次のように報告しました。

9月議会は決算議会とも言われます。平成28年度決算について日本共産党市議団は、次の5点から反対しました。

- ・貧困と格差の拡大に歯止め（2面3段に続く）

### 再稼働やめ 原発から撤退を!!

元外務省国際情報局長の孫崎享（うける）さん

立憲民主党の躍進の真には、共産党が自ら、立憲民主党が立候補している区の立候補を取り下げたことがある。これがなければ、立憲民主党の当選は激減しただろう。国会で民主主義を守るたたかいが、ある程度の効力を持つて出来る体制が維持できたのも、共産党の大英断のおかげだ。狭義の利益からは共産党

### こんにちは 植田和子です



11月12日 選挙が終わってから、経理責任者会議や、市民経済委員会、福岡、熊本、鹿児島へ行政視察に行ったり、H30年度の予算要望で市長と懇談したり、昨日今日は市議会主催の議会報告会があったりといういろいろ公務続きでした。

今回の衆議院選挙、日本共産党は野党共闘のために全国で67人もの予定候補者を下りました。何としても憲法改憲を阻止するため、立憲民主党や無所属の応援、回った日本共産党の姿勢は、正直、カッコイイと思いました。

まさに、国民のために身を切る政党でした。

自民・公明で引き続き衆議院の3分の2を占める結果でしたが、比例選挙での自民党の得票数は有権者全体の17%に過ぎません。

選挙直前に野党共闘が分断されましたが、立憲民主、共産、社民と市民の共闘が力を発揮し、改選前の38議席から69議席まで前進することができました。

「憲法9条を守って」消費税10%反対」などの国民の声に代える足場を築くことができたと思います。日本共産党は、政治を変えようとする市民と野党の共闘の発展にある、この立場で引き続き、力を尽くして頑張ります。

また、国民のために身を切る政党でした。はマイナスを被った。もし選挙区から候補者を撤退させなければ、共産党はこれらの区で自己の主張を行い当選者は増えていた。だが日本は今危機的な状況にある。自衛隊を米国の利益のために海外に派遣する体制が着々と進んでいる。基本的に消費税を増加する分の法人税引き下げが行われ、貧困者の切り捨て政策が促進されている。もし共産

### ヘッドライト

横綱日馬富士の暴行事件が起こった。モンゴルからやってきて日本の相撲界にモンゴル勢の地位を切り開いてきた気負いがあったのか、善意で後輩を厳しく注意しようという思いがあったのかよく知らない。これは「相撲道」を横綱昇進の口上でも述べたのにこれに反する、といえればそれまでだし、彼の酒癖云々は個人の資質だろう。しかし、割り切れないものが残る。

### 日馬富士暴行

本日の良さや特徴を述べる道という深さが強調される。ヒューマニズムも人道主義と訳されることが多いが、同じものではない。この「道」がスポーツに持ち込まれたとき、どうしても大きな問題があるように思う。その精神を徹底するために礼儀などの行動から規制し、それは時に問答無用、納得云々なしに若者に服従を求める。それを国技として異国で育った力士が背負い、伝えるのだ。日本の教育の場ではそのたぐいの精神性が持ち込まれ、道徳の教科化や体育に銃剣「道」と称する殺人術まで導入するならなおさらだ。

